

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、公共投資は、下げ止まっている。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、減少している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、全体としては緩やかに持ち直している。生産は、弱めの動きがみられる。雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている。

先行きについては、国際商品市況の動向およびその国内価格への波及が、管内の経済活動全般に及ぼす影響を注視していく。

2. 最終需要の動向

公共投資は、下げ止まっている。

公共工事請負金額は、前年を上回った。

設備投資は、高水準で推移している。

主要企業の3月短観における2022年度設備投資計画は、一部に能力増強や生産性向上を目的とした戦略投資がみられ、全体では前年を上回る計画となっている。2023年度は、前年をやや下回る計画となっている。

ただし、資材価格の動向など、設備投資を取り巻く環境の不確実性が引き続き高いことから、今後の投資実行状況を注視していく必要がある。

住宅投資は、減少している。

新設住宅着工戸数は、持家は前年を下回った一方、貸家が前年を上回り、全体では前年を上回った。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、全体としては緩やかに持ち直している。

主要小売店の売上高は、堅調となっている。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録台数）は、軽乗用車は前年を下回ったものの、普通・小型乗用車が前年を上回り、全体では前年を上回った。

家電販売は、弱い動きとなっている。

旅行・観光関連をみると、市内ホテルの宿泊人数、主要温泉地の宿泊人数は、緩やかに持ち直している。とち帯広空港の乗降客数は、緩やかに持ち直している。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、弱めの動きがみられる。

生乳・乳製品の生産量は、ともに前年を下回った。

農作物の生育状況（5月15日現在）をみると、概ね順調に推移している。

製材生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、労働需給は、引き締まっている。

有効求人倍率（常用）は、前年を下回った。

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

4月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、倒産件数、負債総額ともに前年を下回った。

4. 金融情勢

預金残高は、個人預金の増加から前年を上回っている。

貸出残高は、前年を上回っている。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

以 上